SEEDS Asia Newsletter Vol.66 (Sep., Oct. 2018)

防災イベントにブース出展 （バングラデシュ）
Booth at IDDR event in Dhaka （Bangladesh）

Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

●Table of Contents Vol.66 (Sep., Oct. 2018)

・バングラデシュ ：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
・インド ：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業
・ミャンマー ：ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業
・フィリピン ：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
・日本 ：丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業
・講師派遣
・お知らせ

• Bangladesh ：Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh
• India ：Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi
• Myanmar ：Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
• Philippines ：Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
• Japan ：Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project
• Delivery Lecture
• Announcement

SEEDS

特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072
神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412
Fax : 078-766-9413
Email : rep@seedsasia.org
Web : www.seedsasia.org
Facebook : https://www.facebook.com/SEEDS-Asia-206338119398923/

バングラデシュ

バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業

【JICA草の根技術協力事業】

北ダッカ市住民の災害対応能力の向上を目指し、コミュニティにおける防災活動を促進しています。

●国際防災の日とシェイクアウト訓練

シェイクアウト訓練の様子

SEEDS Asiaの　防災研修で地震のリスクを学んだ、モデルコミュニティのひとつであるモハカリコミュニティは、メンバーが毎日のように集まるコミュニティオフィスで、Drop、Cover、Hold On(姿勢を低く、頭を守り、動かない)を練習するシェイクアウト訓練を始めました。ダッカでは地震を経験した人はほとんどいないため、地震とはどういうものなのかを想像して備えを行うのは容易ではありません。また、当初、メンバーの中には避難訓練は消防署を巻き込んで大規模に行うものだという思い込みがありましたが、SEEDS Asiaと話し合った結果、まずは自分たちで始めてみることになりました。訓練開始前に、頭部を守り自分の安全を確保、揺れが収まったらあらかじめ決めてある避難場所に避難する、という流れを確認してから挑戦しましたが、初回の訓練は、全く動けないメンバーがいたり、外に飛び出すメンバーがいたりと、計画していた通りにはいきませんでした。数回の練習を経て、ようやく落ち着いて行動をすることができるようになりました。頭では分かっているつもりでも、いざその時になると思った通りの行動ができません。だからこそ実際に体を動かした練習が大切なんだとメンバーが気づいたことは大きな収穫でした。シェイクアウト訓練は誰でも手軽にできることから、このコミュニティでは、家族をコミュニティオフィスに連れてきて訓練に参加させたり、それぞれ個別に家庭で練習をしたりしています。

この経験から、今年の国際防災の日には、他の防災コミュニティも巻き込んでシェイクアウト訓練を実施することにしました。各コミュニティはそれぞれの場所で訓練を実施し、地震発生時の行動を確認しました。また、防災コミュニティ同士の活動紹介や交流の場として開設したフェイスブックページ(www.facebook.com/durjogeamraa/)でもシェイクアウト訓練の参加を呼びかけたところ、これを見た数名から訓練の様子を写した写真やビデオが送られてきました。

また、この日SEEDS Asiaは、防災省主催で大々的に開催されたイベントにもブース出展で参加し、コミュニティ防災の意義と北ダッカ市での取組みを紹介、そして、来場者と一緒にシェイクアウト訓練を実施しました。昨年SEEDS Asiaが実施した防災メディアフェローシップに参加した記者の1人が今年も国際防災の日にあわせて記事を出すという嬉しいニュースもあり、盛りだくさんの一日となりました。

●北ダッカ市職員向けのトレーニング

市職員向けトレーニングの様子

北ダッカ市は、世界銀行の都市強靭化事業で市内に5つある各ゾーンに災害対応センターを建設し、車両や防災機材の整備を進めています。将来的にはゾーンごとに災害対応チームを結成する計画であり、現在それに向けた職員の能力向上が必要とされています。各ゾーン事務所の市職員が防災における市の役割を理解することは、今後のコミュニティ防災推進にも不可欠であることから、SEEDS Asiaが市職員向けトレーニングの支援をすることとなりました。10月より開始し、これまでに3つのゾーン事務所でトレーニングを実施しました。ゾーン事務所には防災を担当する部署はなく、土木や保健、税務、廃棄物処理、事務、といったさまざまな部署から約30名の職員がトレーニングに参加しました。トレーニングでは、災害対応センターの説明と北ダッカ市による災害に強い街を作っていくための取り組み、バングラデシュで起こり得る災害、防災の考え方、また、ダッカのような都市で地震が起きた場合どのような状況になり得るかを、阪神・淡路大震災の例を紹介しながら話し合いました。災害対応センターを利用した市職員向けのトレーニングは今後も継続していく計画です。

インド

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教材開発や防災活動の拠点づくりなどの取り組みを通じて、市民の防災意識の向上を目指します。

●本邦研修での学びから

8月最終週に、国家災害対応部隊やバラナシ市民を日本に招聘し実施した本邦研修での学びから、参加者は早速バラナシで独自の防災活動を始めています。今回はその活発な活動の一部をご報告いたします。

女性グループへの研修での集合写真

特に活発に活動しているのは、バラナシクラブという組織のメンバーです。6月、防災リーダー研修をバラナシクラブとロータリークラブの有志会員に実施し、この中で特に防災に意欲的に取り組んでいるメンバー13名が、国家災害対応部隊とSEEDS Asiaにより、防災大使に任命されました。8月の本邦研修にはこの内2名が参加しました。帰国後、この2名から日本の防災の取組みを知った防災大使たちが、「できる人が、できる時に、できる事を」というスタンスで、様々な防災啓発活動を実施しています。例えば、9月にはロータリークラブ内の女性グループ向けに心肺蘇生法の研修を実施しています。また同じく9月にクリシュナビラというマンション自治会向けに、消火訓練、避難訓練、家庭ごみの正しい処理方法などについて研修しました。これは本邦研修で、防災において「市民への啓発」と「市民による取組み」が非常に重要だということを京都の市民や行政から学んだからです。10月にはアリヤマヒラ学校にて、防災の基本概念、災害時の避難方法、救急救命、火災予防、交通安全など、多岐にわたる内容の研修を実施しています。防災大使たちは、自分たちが住む地域だけではなく、バラナシ市全体に防災を広めるという素晴らしい取り組みを、ボランティアで実施してくれています。

研修の様子

●防災教育アプリ完成！

石巻市のイトナブさんに制作をお願いした防災教育アプリが無事に完成し、11月のキャンペーンで紹介されることになりました。アプリは、Know（クイズ等で防災を知る）、Feel（ビデオ等で災害を感じる）、Do（防災の取組みを決めて実行する）という三つのパートからなる防災教育ツールです。トップ画面では、その日のバラナシの気象状況や空気質の数値を見ることができ、スタッフがバラナシを訪問する際にも大活躍です。インドの都市は空気質が非常に悪く、冬のPM2.5は300を超えることもしばしば（神戸市では50前後です）。このアプリを多くの方に使っていただき、防災を身近に感じていただければ嬉しいです。アプリのURLはこちらです。ご興味のある方はぜひアクセスして下さい！（https://disastersafetygame.net/）

アプリを楽しむ学生たち

今期は市民防災活動推進センター設置に係る準備で大忙しです。センターは12月の開所式に向けて着々と準備が進みつつありますので、次号ニュースレターにてご報告いたします！

ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

エヤワディ地域ヒンタダ地区ナベーゴン村で建設中のシェルター機能を備えた学校は完成に向けて内装工事中です。同時に、学校や地域住民の災害対応能力の強化のため研修・協議会も継続的、定期的に行っています。学校には兵庫県丹波市から黒板や机・椅子などの廃校舎備品を送付することになっており、寄贈式典が丹波市で開催されました。以下、9月から10月の活動を報告いたします。

10月の時点の教室内部

●第6回ワークショップ　～村の防災計画協議会開始～

チームに分かれて話し合っている様子

2015年、ミャンマーの北部からエヤワディ地域に至るまで大洪水が発生しました。ナベーゴン村は洪水の常襲地ではあるものの、同年の洪水は例年にも増して水嵩が高く、学校の閉鎖だけでなく村内でも家屋の浸水や倒壊など多くの被害が発生しました。気候変動に伴う気象災害の甚大化・頻繁化に対応すべく、学校兼シェルターを建設していますが、平時からの備えや情報伝達、緊急時の避難所運営、学校の再開など、多くの計画と合意形成が必要になります。そこで、9月5日には第6回ワークショップとしてこれまでのワークショップで学習してきた防災の基礎知識や村の脆弱性分析などを復習したうえで、村の防災計画の策定を本格始動しました。まずは、防災委員会のサブチームに分かれ、災害の前・途中・後の各段階で必要なニーズや行動を洗い出したうえで、それぞれ自助・共助・公助でどのように対応が可能かまとめました。社会福祉救済復興省・災害管理局ヒンタダ県を管轄するウータンソー氏も参加し、現場の経験やアドバイスを頂きました。

●第7回ワークショップ　～堤防の歴史セッションと捜索救助法習得～

続いて、9月29日、第7回目のトレーニングとして、灌漑局による堤防の歴史のセッションと共に消防局の協力による捜索救援活動の基礎を学びました。灌漑局のトレーニングでは、エヤワディ地域の農地を浸水から守る堤防の建設が英国植民地時代の1881年より開始したことに加え、それぞれの堤防の長さや高さと共に、堤防崩壊の記録についても学びました。参加者から「堤防についてもっと学ぶにはどうしたらよいか」、「堤防の崩壊についてどのような前兆現象があるか」など、堤防について知りたい、という意欲的な質問があり、灌漑局からは堤防の小規模な博物館が開館することの他、堤防の崩壊前には降雨量や河川の流量の増加による水嵩の増加があることが伝えられ、普段から小さな水もれを見逃さないようにすることなどのアドバイスがありました。また、堤防が壊れた際には急激に水が流れるため、探索や住民が被害に遭った時の救助の方法について消防局から実践的な訓練を2日間に亘り受けました。

消防局による実践的な救助のトレーニング

●第8回ワークショップ　～こんな時どうする？避難所運営計画～

続いて、10月20日並びに同月21日には、第8回目のトレーニングとして、ナベーゴン村の学校建設予定平面図を用いながら、全ての村民世帯のカードを作成してゲーム方式で図上訓練を行いました。早期警報が大雨で聞こえない、携帯電話が使えない、村長がヤンゴンから戻ってくることができない、防災倉庫のカギを持っている校長先生がカギを紛失した、など、様々な起こり得るハプニングを含めたゲーム形式のトレーニングを行いました。翌日には社会福祉救済復興省・防災管理局のウータンソー氏が参加し、第6回防災ワークショップで策定した防災計画の暫定版に一体だれがいつどのように対応し、想定外に備えるかを検討し、より詳細な計画を策定しました。

フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

●学校安全点検ワークショップ、マニュアル初稿批評会

安全点検マニュアル初稿批評会の様子

7月から8月にかけ、各パイロット校にて学校安全点検ワークショップを行い、安全点検チェックリストに記載する事項を洗い出すとともに、学校安全点検マニュアル作りの進め方の説明を行いました。学校防災管理指導チーム、教育省地区事務所エンジニア、パイロット校教員、地方自治体防災管理局、建築局、コミュニティ、警察、消防が参加しました。参加した各分野のエキスパートからは、安全点検以外の活動についても「講義や避難訓練実施にいつでも協力させてほしい」、「学校のプログラムや事業をサポートするために、予算の配分を検討したい」などの心強いコメントがあり、学校安全点検マニュアル作りにもご賛同いただきました。その後、各校教員が定期的に集まり、教育省地区事務所防災管理コーディネーターや上記ワークショップ参加者のサポートも得ながら、SEEDS Asiaと学校防災管理指導チームが作成したテンプレートに沿って学校安全点検マニュアルの初稿を作成しました。8月から10月にかけては、その初稿について地区ごとに批評会を行いました。上記ワークショップ参加者に加え、フィリピン国公共事業道路省も参加し、学校が作成したマニュアル初稿へのアドバイスと安全点検の頻度について話し合われました。「避難所を再検討したほうがいい」、「新しく校舎が建設されるときは、業者に設計図の共有をお願いしたほうがいい」、「WASH（水と衛生）プログラム基準に従うべきだ」など、活発な意見交換が行われました。現在、各学校は批評会で得たアドバイスを反映し、マニュアル初版印刷に向けて作業を進めています。

●セブ州との了解覚書調印、教育省4パイロット地区との合意覚書調印

セブ州との了解覚書調印

学校防災管理を学校単独の取組みとするのではなく、地方自治体における政策への反映、予算の確保などの制度化による持続的な活動とする目的で、各市町の首長の理解を得ることを目指し、了解覚書の調印を進め、事業への協力要請を行っています。既に6市町との了解覚書を調印しており、10月8日には、セブ州との了解覚書を調印しました。

また、事業期間終了後も本事業の取組みが教育省により継続するために、教育省各地区との合意覚書調印も進めています。9月24日にタリサイ市地区、10月18日にナガ市地区、22日にマンダウエ市地区、26日にセブ州地区と調印しました。来年度、パイロット地域の地区事務所長を本邦研修に招待する予定ですが、「兵庫県教育委員会や県内の学校を訪ね、事業の持続のための取り組みを観察したい」、「インタビューで情報交換したい」など、事業を通したフィリピンの防災の変革への積極的な姿勢が見られました。

フィリピンを象徴する食べ物、ハロハロ

乾季と雨季があるものの一年中温暖な気候のフィリピンには、日本のかき氷のような「ハロハロ」という食べ物があります。ハロハロとは、フィリピン（タガログ）語で「混ぜこぜ」という意味で、実際に氷の他に、豆、フルーツ、ゼリー、アイスクリーム、とうもろこしなど様々な具材が入っています。フィリピンは植民地だった歴史が長く、日常生活に海外文化を取り入れています。また人種もマレー系、中華系、スペイン系など様々です。島の数も7,000以上あり、172の言語が母語として使われています。フィリピンでは、自分の地域の母語の他に、主にマニラで話されている公用語のフィリピン語、英語を操るマルチリンガルが多くいます。このように「混ぜこぜ」な多様性がフィリピンの魅力です。

ハロハロ

日本

丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業

【丹波市】

復興スタディツアーを通じ、豪雨災害からの教訓を伝え、丹波市の新たな“好流”を促進します。

●アジア防災センター客員研究員向けのスタディツアー実施

10月16日、神戸市にあるアジア防災センターにて研究をしているアジア諸国出身の客員研究員3名を対象に、スタディツアーを開催しました。インド、マレーシア、モルディブから来ている客員研究員は、日本各地を視察し研究を進めていますが、丹波市に来るのは初めてでした。

砂防ダムの写真を撮るADRCの客員研究員

防災の視点で森づくりを進めている北岡本自治会を訪問した後、災害復旧現場を見学し、災害発生時の炊き出しをきっかけに活動をしているグループと交流しました。2014年8月豪雨後に建設された砂防ダムについて「このダムの費用はいくらくらいか？」と質問し、そのコストを聞いた参加者は「人の生活を守るためならいくらでも構わないですよね」と発言していました。また各住民と交流した際には、丹波市の地名の由来や、市内で発見された恐竜の化石についてなど、市内に住んでいる人でもなかなか知らない情報を教えていただき、参加者も生き生きと話を聞いていました。

●兵庫県立大学大学院学生向けのスタディツアー実施

春日町平松区にて竹の伐採を見学する兵庫県立大大学院生

10月29日から30日にかけては、兵庫県立大学減災復興政策研究科の学生4名と先生2名がスタディツアーに参加して下さいました。森林管理に取組んでいる2組の人・組織（北岡本と春日町平松区森林愛好会）を訪問し、異なる活動内容ながらも同じゴールである「森林保全を通じて地域を安全に、活性化する」ことを目指している方々からお話を伺いました。実際に整備が進んでいる森を歩くことで、自然との関わり方や森林作業の大変さを実感することができました。また、それぞれの活動について、「この地域で『若い世代』とはどのような年齢か？（答え：50～60代だそうです！）」や「土地の持ち主はどのように知るのか？」、「間伐した木はどこに出荷しているのか？（答え：地域の森林整備団体をネットワーク化するとともに地域での薪の利用を推進している団体のストックヤード（木材置場））」などといった質疑応答が積極的に展開され、各取組みについての理解が深まった様子でした。

そのほか、丹波市の名産である黒豆の枝豆や芋の収穫体験、山歩き、ジビエ料理などを各場所で味わわせていただき、同市の食の素晴らしさにも気付くことができました。丹波市スタディツアーでは、学びに加え地元住民の方々との対話や食の素晴らしさも体験することができると改めて認識できる機会となりました。

スタディツアーのご案内

今年は、12月23日（土）に、森林活動と、しめ縄作り＋もちつきを組み合わせてスタディツアーを開催することが決定しています。それ以外にも、森林活動は山歩き、間伐体験、木の出荷作業のお手伝いなど、簡単なものから本格的なものまで、リクエストにお応えして内容を調整できます。それぞれの活動の中で、住民がどのように復興に取組んでいるのか、また、復興でどのようなまちを目指しているのか、という興味深いお話を聞きながらの作業となります。体験型学習を通じて、防災、復興、まちづくりについて考えませんか？移動手段や参加料金など、詳しくはお問合せ下さい。

講師派遣

●国際交通安全学会(IATSS Forum)

国際交通安全学会(IATSS Forum: 本部三重県鈴鹿市)の主催で、ASEANメンバー国政府関係者/起業家/医師/教育者などの若手約20名が持続可能な開発と防災について学ぶために神戸を訪問しました。10月7日は、「NGOによる地域密着型の被災地支援 ー第三者として復興に関わることー」をタイトルとして講演の機会をいただきました。同研修は毎年2回実施されており、今回で4度目になりました。アジアの災害被害が増加する中、次世代が持続可能な開発に向けてそれぞれの分野で災害に配慮し備えていって欲しいと強く願っています。継続的にご招待いただき、IATSS様に改めてお礼申し上げます。

IATSS Forum参加者との集合写真

●PHD協会

10月9日、PHD協会(本部神戸市)が日本に招聘中のアジアの研修生3名（インドネシア・ミャンマー・ネパール）向けに「神戸から伝えたい　アジアにおける防災の取り組みーミャンマーを事例に」をタイトルとしてSEEDS Asiaの活動についてお伝えしました。ネパール出身の参加者は、「昔の災害について勉強出来たら」と過去の災害から学ぶことの重要性を認識したようでした。インドネシア出身の参加者は、「一番大事なのは準備すること。学校で避難訓練や消火訓練などできたらいいなぁ」と、同国で津波が発生したばかりであったこともあり、備えることで命が救われることを深く理解していた様子でした。また普段から僧院で子どもに教えることの多いミャンマー出身の参加者は「災害前の準備について子どもに教えたい」と防災教育への意欲を述べていました。SEEDS Asiaの活動から得たヒントを自国に持ち帰り防災活動を広げていってくれたらいいなぁと思います！ご招待いただきPHD協会様に改めてお礼申し上げます。

お知らせ

●「丹波市 “心つなぐ” プロジェクト」寄贈式典

寄贈式典にて丹波市谷口市長とSEEDS Asia職員

10月26日、兵庫県丹波市内で廃校舎/不使用となった学校家具をミャンマーの小学校に届ける「丹波市 “心つなぐ” プロジェクト」寄贈式典と記者会見が丹波市役所にて開催されました。SEEDS Asiaより関係者の皆様にお礼を申し上げると共に、事業概要を報道者の方々に説明しました。その後、丹波市谷口市長より、寄贈にあたるお言葉と共に、2014年に丹波市を襲った豪雨災害からの復興の過程で合言葉となった ” 心つなぐ ” がデザインされた寄贈書(日本語/英語/緬語の3か国語対応)をお預かりしました。 感謝の心とまちを大切に思う” 心つなぐ ” その輪が、皆様のご協力によってミャンマーにも広がっていくこと、大変嬉しく思います。

Bangladesh

Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh
【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

●International Day for Disaster Reduction and ShakeOut Drill

Shake-Out Drill

Earthquake preparedness in Dhaka is particularly challenging since few people have experience managing it. After SEEDS Asia's trainings and activities, Mohakhali community, one of our DRR model communities, has started the Shake-Out drill to practice Drop, Cover, and Hold On in their community office. Initially the members assumed that disaster drill has to be a big event that involves many public service, however, through discussions with SEEDS Asia, the community core members decided to start a small drill among themselves. "Protect head and ensure safety first, then evacuate to pre-defined evacuation site" – although they checked the procedure before a drill, the first attempt did not go as planned as some members could not move at all and the others ran away outside. After a couple of trials, they were finally able to act calmly. The drill was meaningful because the members realized through their own experience that it was difficult to act as planned unless they practice so that it became automatic. As the Shake-Out drill is simple and easy that anyone can do anywhere, some members brought their family to the community office and practiced together and also did it at their homes.

Learning from this experience, we came up with the idea of organizing a Shake-Out campaign, involving other DRR communities to observe the International Day for Disaster Reduction (IDDR) on October 13. Each community practiced Shake-Out in their respective areas assuming an earthquake occurred in Dhaka. The Shake-Out campaign also called for participation on a Facebook page (www.facebook.com/durjogeamraa/) that was created for DRR communities to communicate and exchange information. The participants shared photos and videos of their drill on the Facebook.

In addition, SEEDS Asia set up a booth at the IDDR conference organized by Ministry of Disaster Management and Relief on the day and introduced the importance of community based DRR and our work with Dhaka North City Corporation (DNCC). We also practiced the Shake-Out with spectators at the venue. One of the journalists who participated in our DRR media fellowship program last year, published stories on urban disasters this year, and also highlighted the day.

●DRR Training for City Corporation Employees

Training for city corporation employees

DNCC is setting up an emergency response center in each of the five zones as a part of the World Bank's urban resilience project. The city aims to establish "zone disaster incident management teams". Since employees' capacity building on DRR is needed urgently, SEEDS Asia assists DNCC with training for city employees as their capacity development is crucial for promoting community based DRR in the city. The training was started in October and three have been conducted so far.

The zone offices do not have a department dedicated to disaster management, so the participants came from various departments including health, tax, waste management, and administration. In the training, the purpose of emergency response center, on-going DRR projects of DNCC, disasters in Bangladesh, concept of DRR, and disaster risks in Dhaka with learnings from the Great Hanshin-Awaji earthquake were discussed. SEEDS Asia will continue providing technical support to the city to hold training for its employees to further contribute to make the city safer.

India

Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi
【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

●Initiatives in Learning from DRR Study Visit in Japan

During the last week of August, SEEDS Asia invited 11 NDRF (National Disaster Response Force) and citizens from Varanasi, and conducted a DRR study visit in Japan. The delegates have started their own DRR activities since they returned to Varanasi. Among the participants, members of Benares Club effectively involve community people. In June, DRR leader's training was implemented to the voluntary members of Benares Club and Rotary Club, and 13 members who play the most active roles in DRR activity were nominated as "Brand Ambassador" by NDRF and SEEDS Asia in July. Two of them who visited Japan as a part of the DRR study in August shared about DRR initiatives in Japan to the other Ambassadors after their visit. The Ambassadors were inspired by the DRR activities conducted in Japan, and started implementing further DRR awareness activities with the idea "Anybody, Anytime, Anything". In September, CPR training was implemented to the female group of Rotary Club, as well as fire drill, evacuation drill and a training of household garbage disposal were conducted to the apartment community called Krishna Virat Apartment Society. In October, a variety of trainings: basic concept of DRR, evacuation method in disasters, first aid, fire prevention and traffic safety were conducted in Arya Mahila School. Through the study visit in Japan, Ambassadors reconfirmed the importance of "raising community people's awareness" and "initiatives by citizens". Now they motivate people not only in their own community, but all over Varanasi voluntarily!

Training to the female group of Rotary Club

Sharing what they learnt at the training

●Completion of DRR Education App

The DRR Education App produced with itnav Co., Ltd. from Ishinomaki City, Miyagi prefecture was completed and will be launched at the DRR campaign in November. The app is a DRR education material composed of 3 parts: "Know - learning DRR with quizzes", "Feel - feeling disasters with videos", "Do - make a move towards DRR initiatives". It helps our visit to Varanasi since the app also shows us the weather condition and air quality in Varanasi. India is well known for its severe air pollution. In winter, PM 2.5 level is often over 300 in urban areas of India. SEEDS Asia hopes many people will utilize this app and become familiar to DRR. Please visit the web app at: https://disastersafetygame.net/

Students enjoying the DRR education app

The Citizen DRR Activity Promotion Centre, which provides information, skills and knowledge for making the city resilient to disaster by utilizing of linkages and collaboration in Varanasi, will open this December! Please don't miss next Newsletter to learn more!

Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
【Ministry of Foreign Affairs of Japan（MOFA）】

Construction of the school-cum-shelter is continuing toward its completion in Nabekone Village, Hinthada Township in Ayeyarwaddy Region while training for the school and community people to develop their DRR capacity are continuously conducted. On 26th October, the donation ceremony was held in Tamba City, Japan for the unused school furniture from Tamba that is to be given to the school cum shelter in Nabekone Village. The detail update on activities during September to October are as below.

●6th DRR Training Workshop : Village Disaster Management Committee

In 2015, massive flood was observed from the north to the south west of the country, and Ayeyarwady Region was also severely affected. Our project target area, Nabegon village in Hithada township also experienced highest level of inundation in recorded history though the village face flood annually. It caused significant damages such as collapses of housings and destroying livelihood as well as disturbance of education continuity. In order to minimize the emerging hydro-meteorological hazard risk associated with climate change, the school-cum-shelter is being constructed under the project as an evacuation centre for the village. Along with construction, plans and consensus-building such as evacuation plan, early warning plan, shelter management plan, education continuity plan etc. are also required to manage the shelter to secure the lives. Considering these requirements, SEEDS Asia conducted the sixth session on 5th September, focusing on a review of disaster risk reduction concepts, and resources and vulnerabilities of Nabekone Village. The participants from designated village disaster management committee proceeded to the first step of creating a disaster management plan, by identifying the needs and actions in the preparedness, response, and recovery phases for each sub-committee. U Than Soe, from Hinthada District Department of Disaster Management, also joined the session to observe and give feedback to discussions.

Group discussion

●7th DRR Training Workshop: Disaster History of Dike, and Search & Rescue Training

Practical training by the fire department

On 29th and 30th September, SEEDS Asia conducted the seventh session focused on learning about the disaster history of the dike from the Department of Irrigation, and a Search & Rescue training with guidance from the fire department. Participants learned numerous practical skills useful in emergencies, such as how to extinguish fires, construct tube wells, conduct life-saving in water, and knit ropes for rescue and relief. The participants asked questions such as “How can I learn more about dikes?”, “What kind of premonitory phenomena we can see before a dike collapses?”. The Department of Irrigation suggested to open a small museum of dikes to learn more, and gave them advise to observe carefully if there is any water leaks because water level would rise with heavy rainfall and river flow, before a dike collapses.

●8th DRR Training Workshop: Disaster Management Plan

On 20th and 21st October, the eighth session on table top evacuation exercise was conducted by utilising a layout plan of the shelter cum school in Nabegon Village and household information cards which contains information of every household of the village in each card. The session was held to imagine the realistic situation to handle different types of possible troubles such as “Cannot hear the early waring due to heavy rain”, “Cannot use the mobile phone”, “The village head is not able to come back from Yangon”, “School principal who has the key of storehouse has lost the key” etc. U Than Soe, from Hinthada District Department of Disaster Management, also joined the session on the second day. He shared his experiences in past disasters which enriched the village disaster management manual by defining who will do what and how in every phase of disaster management as a follow up activities after the 6th session on disaster management plan.

Philippines

Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

●School Safety Inspection Workshop and Manual Critiquing

In July and August, SEEDS Asia conducted safety inspection workshops in Pilot Schools in order to list up items needed in safety inspection manuals, and explained how to draft those manuals. School Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) Instructing Team (SDRRM-IT), Department of Education (DepEd) Division Engineer, teachers of Pilot schools, Local Government Unit DRRM Offices, Office of the Building Official, Community, Philippine National Police, and Bureau of Fire Protection participated. Stakeholders gave comments such as "We are always ready to assist and support anytime, in conducting lectures and drills", "We can allocate budget to support the programs and projects of schools", and committed their support to the project.

School safety manual critiquing

After the workshops, teachers drafted a manual with the support of SDRRM-IT and other participants of the workshop, using templates SEEDS Asia and SDRRM-IT provided. SEEDS Asia also conducted a critique of these manuals with each Pilot School. In addition to the participants of the workshop, In the critiquing sessions, Department of Public Works and Highways also participated, and each participant provided advice to the schools about the contents of the manuals, and discussed the frequency of school safety inspections. Participants provided comments such as "Evacuation area should be reconsidered", "If there is a newly constructed building, the school should ask the contractor for a copy of the plan", "Follow the standards based on the WASH (Water, Sanitation and Hygiene) Program". Schools are revising their manuals based on these pieces of advice and preparing for a first printing of the revised draft manuals.

●Memorandum of Understanding Signing with Cebu Province, Memorandum of Agreement Signing with Four Department of Education Pilot Divisions

MoU signing with Cebu Province

In order to avoid considering School DRRM done only by schools, but to consider it sustainable activities with policies and budget, SEEDS Asia plans to sign a Memorandum of Understanding (MoU) with Local Government Units and enforce the cooperation towards current DRRM Project. SEEDS Asia has already signed MoUs with six Cities and Municipalities. On October 8th, SEEDS Asia also signed an MoU with Cebu Province.

SEEDS Asia also seeks enhancement of cooperation with DepEd Division Offices. SEEDS Asia signed Memoranda of Agreement on 24th September with Talisay City Division, on 18th October with City of Naga Division, on 22th with Mandaue City Division, and on 26th with Cebu Province Division. In next fiscal year, each Schools Division Superintendent will be invited to Japan Study Visit, and prior to the Visit, they gave comments such as "I want to visit Hyogo Prefectural Board of Education and schools to observe School DRRM initiatives for sustainability", "I want to exchange ideas through interviews".

Halo-halo, Symbolic Dessert of the Philippines

Though there are dry and rainy seasons, the Philippines enjoy mild weather all year around. They like "Halo-halo", Japanese *Kakigori* (shaved ice dessert) like dessert. "Halo-halo" means "Mixture" in the Filipino (Tagalog) language. This dessert contains ice, beans, fruits, jellies, ice cream, corns, and so on. The Philippines have multiple cultures, because of their history of colonization. There are several ethnic groups such as Malay, Chinese, Spanish origins, etc. With more than 7,000 islands, there are 172 languages. Many Filipinos speak their mother tongue in their region, Filipino (mainly spoken in Manila), and English. This diversity with "mixture" is a major of the Philippines.

Halo-halo

Japan

Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project
【Tamba City, Hyogo】

●Study Tour for Asian Disaster Reduction Center（ADRC）Visiting Researchers

On 16th October, three Visiting Researchers (VR) at Asian Disaster Reduction Center in Kobe, participated in the study tour. The VRs are from India, Malaysia and the Maldives, and are all working on their research while visiting different places in Japan. This was their first visit to Tamba City!

Visiting Researchers taking pictures of erosion control dam

After visiting Kita-Okamoto, where forest management from the viewpoint of disaster risk reduction is ongoing, the VR visited restored areas after the rain disaster in August 2014, as well as a group who started their activities after being engaged in food distribution when the same disaster occurred. A VR asked: “How much is the cost of constructing this sabo (erosion control) dam?” the answer to which she mentioned is “not a big amount of money in order to protect the lives of the people”. When they interacted with the local residents, interesting information about the origins of the names of places in Tamba City and about the dinosaur fossils found in the City was shared, which even locals barely know, and the VR were actively communicating with them.

●Study Tour for Students at Graduate School of Disaster Resilience and Governance, University of Hyogo

Students observing bamboo trees logged

From 29th to 30th October, four students and two faculty members of the Graduate School of Disaster Resilience and Governance of University of Hyogo participated in the study tour. Hosts were two different person/organization (Kita-Okamoto in Ichijima-cho and Hiramatsu District Forest Club in Kasuga-cho) who are engaging in forest management. Even though their sites and activities may be different, their goals was the same: to make the community safer and vitalized through forest management. By actually walking through the forest under management, the participants were able to feel how humans can build relations with nature, and significance of much efforts. The participating students asked questions like: “What age group do you mean by saying “young generation”? (answer: in their 50s and 60s!)”; “How do you know who are the owners of those forests?”; and “Where are the timber from thinning activities going?”, which made the participants understand more deeply about each initiative.

Additionally, harvesting activity of black beans (delicacy of Tamba!) and potatoes, walks in the forest, and meals with local ingredients were also carried out. The Tamba City Study Tour is a place where study as well as communication with local residents and beautiful food.

Invitation to Study Tour in Tamba City

This year, the tour on Saturday, 23rd December is open. You may participate in activities in the forest and straw rope-making (preparing a traditional decoration item for New Year’s) combined with rice cake pounding. The activity in the forest can be arranged based on the request by the participants: from a casual walk in the forest to demonstrative tree-thinning or assisting shipment of timbers. The rice cake pounding activity will be using the red beans that are grown in a land affected by the 2014 disaster and are to be harvested on 23rd November for the first time after the disaster. In the activity, participants may ask the residents what kind of initiatives they are taking towards what definition of disaster recovery. Through experiential learning, why not think about disaster risk reduction, disaster recovery and community development? Please contact us if you would like to participate in a future study tour or have any inquiry about the detail including how to get to Tamba City.

Delivery Lecture

●IATSS Forum

On 7th October, SEEDS Asia gave a lecture on “Support for Community Planning and DRR Activities in Recovery Process by NGO -From Experiences from Myanmar-” to a delegation consisting of young and energetic government officials, entrepreneurs, doctors and educationists etc. from ASEAN countries who were selected and invited by IATSS Forum from Suzuka city, Mie prefecture. Since Asian countries are facing higher hazard risks than the other regions of the world, we wish the members to start taking actions for disaster risk reduction in each field to secure the lives and properties as well as to achieve sustainable development. By taking this opportunity, SEEDS Asia would like to express our gratitude to IATSS Forum for connecting us with members from ASEAN countries in Kobe on a regular basis!

Group photo with IATSS Forum participants

●Peace, Health and Human Development（PHD）Foundation

On 9th October, SEEDS Asia dispatched a staff members as a lecturer to an NGO in Kobe called Peace, Health and Human Development (PHD) to share our experience themed on “DRR Activities in Asia with a message from Kobe –” to three trainees from Indonesia, Myanmar and Nepal who were invited by PHD. Ms. Sabina from Nepal commented “I would like to study disaster history of my village” as she learnt the importance of knowing past disasters. A trainee from Indonesia understood the importance of preparedness deeply to save more lives since tsunami hit her country just a few days ago and emphasized that “Preparedness is the most important action. I hope we can conduct evacuation drills and trainings how to use extinguisher.” The trainee from Myanmar who often teaches students at Buddhist monastery was motivated in DRR education and saying that “I would like to teach my students preparedness before disasters.” SEEDS Asia hopes they take back what they leant and promote DRR in their countries. We thank The PHD Foundation for giving us the opportunity to share our initiatives!

Announcement

●Donation Ceremony for "Tamba City Bridging Heart Project"

The Mayor of Tamba City and SEEDS Asia staff at the donation ceremony

On 26th October, the donation ceremony along with press conference was held at Tamba City Hall for the "Tamba City Bridging Heart Project" wherein unused school furniture from Tamba is to be given to an elementary school in Myanmar. SEEDS Asia presented our sincerest gratitude to all the people concerned, and had a chance to explain the project brief to the media. Mr. Taniguchi, the Mayor of the City shared his words regarding the donation and handed over the letter of presentation (trilingual in Japanese, English and Burmese) with the logo of "Kokoro Tsunagu (Bridging Hearts)" as the phrase representing the recovery from flooding of 2014 which took place in Tamba, to SEEDS Asia. We are overwhelmed with the fact that "Bridging Hearts" with thankfulness and values on homelands is prevailing to Myanmar by our strong partnership with so many people.